

# 東北 VALUE SIGHT 秋田



NPO法人大曲花火倶楽部 会長  
**賢木 新悦** (さかき・しんえつ)

1947年、秋田県大仙市生まれ。  
株式会社都市整備代表取締役会長。  
(社)大曲青年会議所理事長、日本商工会議所青年部副会長  
を歴任。現在、北東北連携ネットワーク会長、NPO法人大  
曲花火倶楽部会長、大曲商工会議所副会頭、NPO法人秋田  
岩手横軸連携交流会理事長を務める。  
NPO法人 大曲花火倶楽部  
〒014-0047 秋田県大仙市大曲須和町1丁目1-57  
TEL 0187-62-6887  
<http://www.geocities.jp/omagarihanabiclub/>

全国的に有名な「大曲の花火」だが、その大会を支え、花火で地元を活性化させようと取り組んでいる団体「NPO法人大曲花火倶楽部」がある。花火という地域資源を存分に生かせるよう、技術の発展のために若手花火作家による花火大会を主催したり、花火観賞士という検定試験を行ったり、ファンを飽きさせない工夫をしている。

## 「大曲の花火」 新しい100年 に向かって

2010年に大曲の花火は100年目を迎えた。8月28日、好天にも恵まれ国内外から集まった80万人の観客の前で参加花火師の作品が夜空のキャンパスを彩り、感動を与えた。

明治43年に諏訪神社の祭典の余興として奥羽六県煙火共進会でスタートした大会であるが、天災や第2次世界大戦等で一時中断があったものの、その精神が脈々と受け継がれ、今では内閣総理大臣賞を競う素晴らしい花火競技大会へと発展した。

### 中興の祖 佐藤勲氏

佐藤勲氏を除いては大曲の花火を語ることはできない。戦後秋田県には全国の花火競技が3大会あり、運営は難しく、その打開策の企画役員として佐藤勲

氏が昭和32年に就任した。

佐藤勲氏は持ち前の旺盛な好奇心で積極的に改革を実行。昭和38年には通産大臣賞を設け、翌年には佐藤勲氏の発案である「創造花火」が競技種目につけ加えられた。昭和42年には主催者が提供するワイド型の創造花火「大会提供花火」が始まった。

佐藤勲氏が掲げた前衛芸術や老若男女を喜ばせるショーの要素をもった大会は今開花している。

今年4月には20回目となる大会が開催された。これは日本で一年のうちで一番早く開催される競技大会であり、他の大会にも影響があるので、大曲から東北の元気を発信したいとの思いがあり、開催したものである。

### 市町村合併を機に「花火暦」作成

平成17年に8市町村が合併し大仙市が発足した。これを機に大仙市全体を盛り上げようと、全国ブランドである「大曲の花火」エリアを広げて地域活性化を図るため、大仙市各地の花火大会と新たに設けた花火大会を併せ、毎月花火が上がるよう企画し、大仙市の「花火暦」を作成した。新しく加わった花火は、住民が桜を大切に地域を盛り上げている「余目桜鑑賞花火」、地酒の酒造会社の協力で開催した「檜岡さなぶり酒花火」、日本花火鑑賞士の「レベルアップ研修花火」等である。

### 全国でも珍しい花火鑑賞士認定試験

今年で8回目となる認定試験の合格者は、北は北海道から南は九州まで、636名を数える。当倶楽部で実施しているこの認定試験は、日本一の内閣総理大臣賞をかけての競技大会が行われる大曲だからこそ実施可能な資格試験である。これは、花火師達の日夜の努力に敬意を表し、観る側が花火に関する知識を高めて真剣に鑑賞するための資格でもある。毎年150人ほどが受験するが、合格は厳しいものである。試験は講座の受講と筆記試験から構成され、試験前の講座内容は、花火の歴史概論や打ち上げ方法、花

火鑑賞法などである。その後、1時間の筆記試験とビデオによる玉名の記述試験がある。合格者は花火に対し熱心な方が多く、大曲には8月の競技大会をはじめ、3月の新作花火コレクション、5月の花火鑑賞士の集い等、数回来曲して頂いている。また、合格者が主体となって3年前に日本花火鑑賞士会を結成し、全国各地の花火鑑賞、花火の研究セミナーの開催、募金活動を行っている。毎年100人近くが合格しているので今後が楽しみである。

### 新しい100年に向かって

当倶楽部の基本理念は「ようこそ 大曲の花火へ」である。お陰さまで大曲の花火は全国有数の大会となった。それはプレッシャーでもある。先人が築いた宝物を大切に、これからは大曲の花火が全国の皆さんに支持されるためには、素晴らしい競技花火を打ち上げていかなければならない。花火師さんが技術の発展を心掛けることに加え、観客の方々が安心・安全で感動できるように会場を設定し、アクセスを良くしていく必要がある。また、エンターテインメント性が高い大会提供花火やスポンサー花火をより魅力あるものにすることを心掛けたい。

今年の第85回大会のテーマは「元気な日本」である。新しい100年に向かって地球、時代が求めるニーズに対応し、常に変化し続ける。

3月11日の東日本大震災は多くの犠牲者、罹災者を出した。政治、経済に暗雲が立ち込め、その復興対策も遅々として進むことができないでいる。

しかし、われわれは負けるわけにはいかない。日本には誇れる歴史文化、優れた国民性、自然環境がある。その素晴らしい日本を花火から放つエネルギーで創り直そうとするものである。皆さまの来曲を心待ちにしている。

### 大曲花火倶楽部の発足と新作花火コレクション

平成3年、大曲青年会議所のメンバーを中心に花火をこよなく愛する有志が設立した「大曲花火倶楽部」は、日本の伝統的総合芸術である「花火」への理解を深めること、また「大曲のシティアイデンティティ」は「花火」であるとの考えのもと、市民レベルでの花火に関する事業を通じて大曲地域のイメージアップや活性化を図ること、を目的としている。平成14年には、花火を通じて街づくりを進める団体としては、日本で初めてNPO法人の認証を受けている。

当倶楽部の最初の事業として、平成4年に若手花火作家の大会「新作花火コレクション」を開催した。これは日本煙火協会青年部とタイアップした、花火製造技術の向上を目的とした大会である。

全国のプロックから選出された30人の若手花火作家によって、技術的に難しい4号や5号の小玉15発の新作花火を打ち上げるものであるが、大曲で見られない若者らしい挑戦花火が見どころである。早春にここで生まれた作品が全国の花火大会に飛び立っていく。



大仙市で毎月花火が打ちあがるイベントが行われ、それらの予定を「花火暦」として作成している。